

健康

質問

母が肺がんになり、大きな病院で治療を受けることになってい
す。担当医から「治療を開始する上で自宅から近いかかりつけ医をつ
くってください」と勧められました。これまであまり病院を受診したことな
く決まったかかりつけ医はいません。今の病院だけでずっと診てもらえ
ませんか。

がん診療の地域連携



鳥羽 博明
徳島大学病院
呼吸器外科助教

回答

もちろん 治療を受ける大きな病院で主に診てもらうことになります。一方、近くにかかりつけ医がいて、自分の病状を知っておいてもらうのは非常にメリットが大きいです。がん治療はつらい症状が出る場合があります。また、不安になることもあります。そんな時にかかりつけ医がいると、治療を受けている病院の担当医と一緒に考え、症状や不安に対処してくれます。自宅から近い所にかかりつけ医がいると便利。大きな病院と違い待ち時間が短いです。つらい症状が出た場合は、遠方で待ち時間が長いと、大きな苦痛になります。治療を受けている病院の医師とかがかりつけ医の主治医2人が一緒に診てくれるメリットは非常に大きいのです。

主治医2人利点大きく

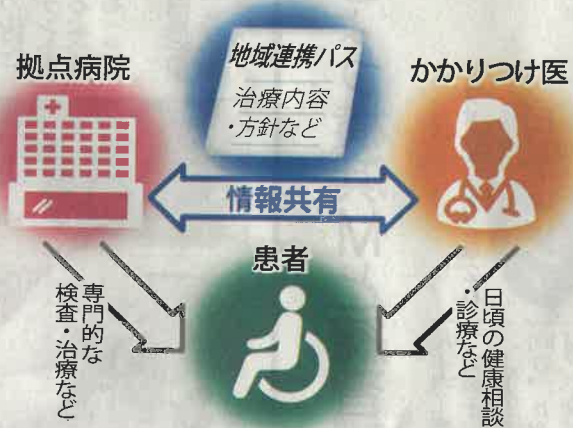


主治医2人制によるがん診療の地域連携は国も推進しています。2007年に策定されたがん対策基本法に始まります。第1期がん対策推進基本計画は、11年10月までに5大がん(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝がん)の地域連携クリティカルパス(治療

計画書)を整備し、早期からかかりつけ医と連携して治療に当たれることを求めました。

徳島大学病院でも術後連携パスを作製。かかりつけ医と共に手術後5年間経過観察していくシステムを作り、連携を進めてきました。

しかしながら国は18年の第3期計画でも不十分であり、より踏み込んだ役割分担し、地域で切れ目のない医療・ケアを提供する連携体制を作っていくよう提言しています。そこで徳島では県内を



中心に550の病院・診療所に大規模なアンケート調査しました。①がん患者の受け入れの可否②分担可能な診療内容について問う内容で、289施設(53%)から回答がありました。がんの種類によって異なるものの、およそ120~160施設(肺がんは157施設)のかかりつけ医ががん患者の受け入れ可能との回答でした。内服の抗がん剤に加え、注射薬の投与やCT撮影などさまざまな診療内容を分担してもらえることが分かりました。

アンケート内容は徳島大学病院のホームページから見ることが出来ます。徳島大学病院↓がん診療連携センター↓徳島大学病院がん連携病院検索にアクセスしてください。

主治医2人制によるがん診療の地域連携は徳島県でも整いつつあります。より安心してがん治療を受けるためにも、ぜひかかりつけ医を持つことを勧めます。

役割分担切れ目ないケア

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
(電088(634)6442)
(平日午8時半から午後5時まで)